

規格表

製品名称：ヒアルロン酸ナトリウム MW80/110, MW110/160, MW190/240

規格〈医薬部外品「ヒアルロン酸ナトリウム(2)」該当〉

本質	乳酸球菌 <i>Streptococcus zooepidemicus</i> を用いる発酵法により得られるヒアルロン酸ナトリウム塩である。
性状	白色～淡黄色の粉末で、わずかに特異なおいがある。
確認試験(1)	本品の水溶液(1→1000)10mL に塩化セチルピリジニウム水和物溶液(1→20)2～3滴を滴加するとき、白色の沈殿を生じる。【医薬部外品原料規格2006、ヒアルロン酸ナトリウム(2)、確認試験(1)】
確認試験(2)	本品の水溶液(1→1000)は、ナトリウム塩の定性反応(1)を呈する。 【医薬部外品原料規格2006、ヒアルロン酸ナトリウム(2)、確認試験(2)】
確認試験(3)	本品の水溶液(1→10000)1mLに硫酸6mLを加え、水浴上で10分間加熱し、冷後、カルバゾール試液0.2mLを加えて放置するとき、液は、赤色～赤紫色を呈する。 【医薬部外品原料規格2006、ヒアルロン酸ナトリウム(2)、確認試験(3)】
確認試験(4)	本品を乾燥し、赤外吸収スペクトル測定法の臭化カリウム錠剤法により試験を行い、本品のスペクトルと本品の参照スペクトルを比較するとき、両者のスペクトルは同一波数のところに同様の強度の吸収を認める。 【日本薬局方、精製ヒアルロン酸ナトリウム、確認試験(2)】

項目		規格	試験法
pH		6.0 ～ 7.0	医薬部外品原料規格2006 ヒアルロン酸ナトリウム(2)
濁度		0.04 以下	日本薬局方 紫外可視吸光度法 100mm、430nm、0.5%水溶液
純度試験(1)	重金属	20 ppm 以下	医薬部外品原料規格2006 ヒアルロン酸ナトリウム(2)
純度試験(2)	ヒ素	2 ppm 以下	医薬部外品原料規格2006 ヒアルロン酸ナトリウム(2)
純度試験(3)	たん白質	0.1 % 以下	医薬部外品原料規格2006 ヒアルロン酸ナトリウム(2)
純度試験(4)	他の酸性ムコ多糖	認めない	医薬部外品原料規格2006 ヒアルロン酸ナトリウム(2)
純度試験(5)	溶血性連鎖球菌	認めない	医薬部外品原料規格2006 ヒアルロン酸ナトリウム(2)
純度試験(6)	溶血性	透明である	医薬部外品原料規格2006 ヒアルロン酸ナトリウム(2)
乾燥減量		10.0 % 以下	医薬部外品原料規格2006 ヒアルロン酸ナトリウム(2)
強熱残分		15.0～20.0 %	医薬部外品原料規格2006 ヒアルロン酸ナトリウム(2)
定量法(1)	窒素	3.0 ～ 3.6 %	医薬部外品原料規格2006 ヒアルロン酸ナトリウム(2)
定量法(2)	グルクロン酸	44～ 48 %	医薬部外品原料規格2006 ヒアルロン酸ナトリウム(2)
極限粘度	MW80/110	14.5～18.6 dL/g	日本薬局方 精製ヒアルロン酸ナトリウム 粘度
	MW110/160	18.6～24.9 dL/g	
	MW190/240	28.4～34.1 dL/g	
分子量	MW80/110	80万～110万	日本薬局方 精製ヒアルロン酸ナトリウム 平均分子量
	MW110/160	110万～160万	
	MW190/240	190万～240万	
微生物限度(1)	総好気性微生物数	10 ² CFU/g 以下	日本薬局方「精製ヒアルロン酸ナトリウム」
微生物限度(2)	総真菌数	10 ² CFU/g 以下	日本薬局方「精製ヒアルロン酸ナトリウム」
特定微生物(1)	大腸菌	陰性	日本薬局方 特定微生物試験
特定微生物(2)	緑膿菌	陰性	日本薬局方 特定微生物試験
特定微生物(3)	黄色ブドウ球菌	陰性	日本薬局方 特定微生物試験
特定微生物(4)	カンジダ・アルビカンス	陰性	日本薬局方 特定微生物試験
残存培地成分		検出限界以下	エライザー (検出限界：5ppm 以下)